

ブリーフレーター Brief Letter 65

人と地域と医療を繋ぐ 秋本病院の情報誌



特集

未来を見据える 一般病棟の取り組み

～地域の方が安心して受診できる医療機関であるために～

千一夜医話 秋本病院理事長・院長
秋本 亮一

- スタッフの横顔 ～永年勤続者紹介～
- 給食室より/ブロッコリーのペペロンソテー



医療法人 AGIH
秋本病院

[救急告示病院] [日本医療機能評価機構認定病院]
消化器内視鏡センター/健診センター/緩和ケアセンター

SHOP 散策

花匠

見るものを確実に 喜ばせてくれる フラワーショップ

当院前の信号を渡って正面の「花匠」さん。1985年創業の老舗です。

観葉植物や鉢植え、切り花、枝ものなど所狭しと素敵にディスプレイされていて、思わず足を止めてしまうお花屋さんです。

自宅に飾る花はもちろんのこと、ギフトや商業施設のディスプレイ、リースなど幅広く手掛けておられ、お洒落な社長、奥様と二人のお子様、従業員の方々総勢10名で忙しく働いていらっしゃいます。

他店では見られないような珍しいお花も多く、アレンジのセンスは抜群で、ギフトを送るときなど安心してお任せできます。奥様のお話によればお客さまのニーズを察知するために会話や服装からヒントを得るとのこと、また時には1輪の花を選んでそこから膨らませ行くとのこと、流石だなと思いました。

ご家族が中心になっての幸せな職場で従業員の方たちとのチームワークもよく、そこから生まれる作品は見るものを確実に喜ばせます。自分のために、また身近な誰かのために一度訪ねてみてください。

▶スタッフの皆さんのアットホームな雰囲気も素敵です



▲色とりどりの美しい花が並んでいます

店舗情報

花匠



住所：福岡市中央区薬院2丁目16-1
ロマネスク薬院第3-1F
電話：092-714-2188
営業時間：10:00～17:00
定休日：日曜日、祝日

編集後記



思いがけず10月の連休の真真中に空白の一日が出来たので、この機会に2018年7月に世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のひとつである天草の崎津教会へ出かけてみることにしました。

背後に急峻な崖が迫る海に面した小さな集落に、ゴシック様式の教会が青空を背景に建っていました。ボランティアの方の説明を聞くと、各地の教会群が世界文化遺産ではなく中世からのキリスト教を信仰し続けた小さな集落群が世界文化遺産だ、とのことでした。

崎津教会は「海の天主堂」とも呼ばれているそうです。その室内の壁は漆喰塗で白く明るく、窓にはステンドグラス、天井も白い漆喰塗のリップ・ヴォールト天井、床は教会としては珍しい畳敷きとなっており、心落ち着ける天主堂でした。ポカリ空いた休日でしたが、嬉しい初秋の日でもありました。



秋本病院 ブリーフレーター No.65 2018年12月発行 発行者/秋本亮一 発行所/医療法人 AGIH 秋本病院 デザイン/有限会社 広告農場 編集/矢野 美恵子
Copyright 2018 Akimoto Hospital All rights reserved.

医療法人 AGIH 秋本病院 福岡市中央区警固1-8-3
TEL:092-771-6361
●診療科目：外科(消化器外科)・内科・胃腸科・肛門科・整形外科・脳神経外科・麻酔科
●外来診療受付：平日8:30～12:30/14:00～17:00 土曜8:30～12:00 ●休診日：日・祝
<http://www.akimoto-hospital.jp/>

秋本病院 の理念

1. 専門医療を通じ、地域社会に貢献します。
2. 皆さまのご満足と安心のために、医療に関する十分な情報を提供します。
3. 質の高い心のこもった医療を続けるために、常に研鑽努力します。

福岡市は2013年5月に人口150万人を突破し2035年には160万6千人でピークを迎える
と予測されています。この中で高齢者数は2025年には39万6千人、2040年には49万7千人
となり、全体の4割は高齢者となるため、今後は地域で支えることが重要となってきます。当
院でも、そのような状況を踏まえた取り組みを行っています。今回は、当院の一般病棟につい
てご紹介します。



入院された患者さまや面会の方々にご利用して頂
いている「ダイニング」

当院には2名の社会福祉
士がいます。入院中に高度医
療の治療が必要な患者さま
は三次医療機関へ転院調整
を迅速に行います。また当院
での治療方針決定後、在宅診
療の導入や、介護保険の見直
し、居宅サービスなどが必要
と判断された場合は社会福

社会福祉士が担う 地域との連携

間の入院対応や紹介入院、又
当院の緩和ケア科の患者さま
の夜間緊急入院の受け入
れも24時間行っています。

地域連携室では社会福祉
士が、一般病棟で主に後方支
援に取り組んでいます。患者
さまの中には認知症の進行
や、疾病によって入院前と同
じ環境に戻ることが困難な
ケースもあります。
支援が必要な場合は今後
の生活について一緒に検討
し、社会福祉制度やサービ
スの活用など退院の準備を
していきます。入院前の生活
状況、家族関係や収入など踏
み込んだ内容のアセスメント
もしますので心身に配慮し

医療地域連携室の役割

社士の介入により担当ケア
マネージャーや包括支援セ
ンターの方々や連携を図り
退院前カンファレンスを行
い、在宅へ向けて環境を整
えています。他にも患者さまの
状態やご家族の希望を確認
し施設入所の調整なども
行っています。

ながら関わらせていただい
ています。近隣病院、在宅医
療、介護支援機関に協力を
いただきながら、その人らしい
自立した生活へ復帰できる
よう支援しています。
今後、超高齢化社会が進み
医療の動向は地域包括ケア
システムの充実が示唆され
ています。福岡市の地域包括
ケアシステムは『誰もが個人
として尊重され、人生の最後
まで住み慣れた地域で自立
した生活を安心して送って
いる町』を目指しています。
そんな中で、当院の一般病
棟の役割は今後も二次救急
医療機関として体制を整え
ておくことが必須であり、ま
た地域の方々がいつでも利
用できる医療機関として、近
隣の医療機関や在宅診療の
方々との連携を図っていく
ことが重要だと思っていま
す。

(宮崎莉菜)



こんな活動も 行っています

毎年福岡国際センターで行
われている大相撲九州場所
にて、医務室において力士の
体調管理や観客の救護
活動を行っています。

特集 未来を見据える 一般病棟の取り組み

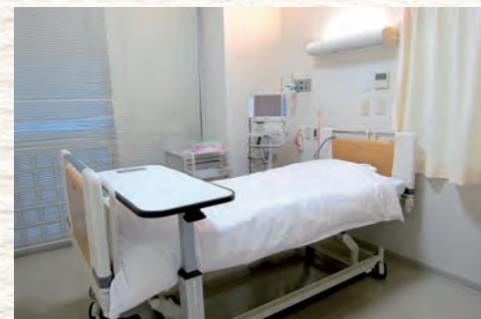
～地域の方が安心して受診できる医療機関であるために～



当院の一般病棟について

当院は急性期一般50床の
救急告示病院です。常勤医師
5名、非常勤医師15名、看護
師等52名、社会福祉士2名、
薬剤師、放射線技師、臨床検
査技師、管理栄養士等が勤務
しています。

一般病棟ではHCU4床・
多床室(4人部屋)7室・ドッ
ク室2床の計34床を備え、多
職種とともに患者さまが必
要な治療、日常生活の援助を
受け在宅へ退院できるよう
日々取り組んでいます。看護



一般病棟の411号室

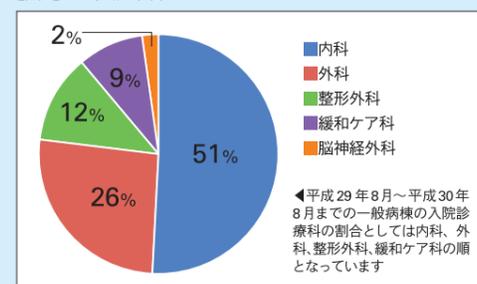
方針はプライマリ制を取
り入れ、日々看護援助を行っ
ています。患者さまと関わる
中で随時、個々の問題点、今
後の方向性などを含めアセ
スメントを行いチームメン
バーで情報共有し、他職種連
携を図り問題解決に向けて
看護を提供しています。

一般病棟へ入院して来ら
れる方は①当院外来受診後
の精査、加療目的にて入院
②近隣の在宅医からの紹介
入院③三次医療機関からの
転院④休日・夜間の救急入
院などがあります。

当院の診療科は、外科(消
化器外科)、内科、整形外科、
脳神経外科、緩和ケア科、麻
酔科です。消化器外科の手術
例として腹腔鏡下での胆嚢
摘出術、虫垂切除術、結腸切
除術などが行われています。
消化器内科としては1泊2
日でのポリプの内視鏡的
粘膜切除術の入院もありま
す。そして、一般病棟でも緩

和ケア科の緊急待機入院の
対応を行っており緩和ケア
センター同様、症状のコン
ロールを行い在宅への退院
支援、緩和ケアセンターへの
スムーズな転棟が行えるよ
う他職種と連携を取り調整
を図っています。

【図1】入院診療科



二次救急医療としての 役割も

また、当院では二次救急医
療の役割を担っており24時
間、救急車の受け入れ体制を

【図2】救急車受け入れ件数 救急車搬送による入院件数



取っています。救急車の受け
入れ件数は、平成27年は年間
1,000件、そのうち入院
患者は429件、平成28年は
年間1,148件、そのうち
入院患者は513件、平成29
年は年間1,178件、その
うち入院患者は549件と
なっています(図2参照)。そ
の他にも急患の診療を24時
間行っているため外来診察
や入院の必要性があれば夜

スタッフの横顔

今回は「スタッフの横顔」特別編として、今年、当院勤続20年を迎えた2名と10年を迎えた3名よりコメントを頂きました。

永年勤続
20年



看護師 まなご あつこ
眞子 敦子

看護師になって二つ目の入職先が秋本病院でした。早いもので、今年で20年という長期にわたり務めさせていただいております。西通り時代から一般病棟、外来と経験し、警固に移転後には一般病棟を経て、現在では緩和ケアセンターに所属し患者さまの看護にあたっています。緩和では痛みや悲しみ、また楽しみもありますが、頼れるスタッフとともに患者さまやご家族のためにこれからも頑張れたらと思っています。

永年勤続
10年



看護師 おおた ゆきこ
太田 幸子

今年で勤続10年を迎えることが出来ました。2年間の育休を頂き、この様に仕事を続けることができるのも、部長、師長をはじめ、緩和ケアセンター、スタッフの支えがあったからこそだと思います。今は、家事や子育て、愛犬のお世話と忙しい毎日ですが、人と人との繋がりや一日一日を大切にしていき、感謝の気持ちを忘れず頑張っています。

永年勤続
10年



看護師 あらき よしえ
荒木 由愛

緩和ケアに興味を持ち、入職してから今年で10年目を迎えました。ここで一番感じたのは、スタッフ同士の仲の良さ。仕事内容やプライベートな悩みも相談できる、助け合える関係が、この病棟の雰囲気を作っていると思います。これからもたくさんのお患者さまやご家族の方を笑顔にできるような、そんなチームでありたいと思います。

永年勤続
10年



薬剤師 いけだ あいり
池田 愛理

パートながらも10年の月日が経ちました。何かと続けてこられたのは薬局長をはじめスタッフの皆さまのお力添えのおかげです。心より感謝しております。この10年間、医療を取り巻く環境は大きく変化してきました。ジェネリック医薬品の普及が進み、新薬も次々と出ています。患者さまの適切な治療に少しでも貢献できるよう、努力していきたいと思っています。

永年勤続
20年



看護師 あらき じゅん
荒木 淳

えっ、もう20年。これが最初の言葉ですが、当院に勤務し、救急医療におけるやりがいや楽しさを学びました。一貫して言えることは、質の高い医療・看護を提供できるようスタッフが日々研鑽・努力していることだと思います。今後も、地域医療に根ざしたチーム医療を提供していきたいと思っています。

Report

緩和ケア地域連携勉強会

第2回目となる秋本病院緩和ケア地域連携勉強会を8月28日に開催致しました。

参加者は20施設、当院職員と合わせて92名となる大変盛況な会となりました。来場して頂いた方からは、『濃厚な時間が過ごせた』、『ケアを受ける側への説明の大切さ、心に寄り添うことで得られる安心感が不安の軽減につながることを事例の説明で心に深く刻み込まれた』等々、沢山の温かい言葉を頂きました。患者さまの身体の痛みや心の苦しみを和らげるため、地域の皆様との連携を密にしながら今後も学びを深めていきたいと思っています。



看護部研究発表会

2018年10月13日、第2回看護部研究発表会が行われました。各部署より持ち寄った、特殊性を生かした研究テーマで発表を行いました。参加者は事前に準備された抄録を読んだうえで出席しているため、質問や意見もあり有意義な時間となりました。

今後の看護に活かせるものも多く、すぐにも実践したいという感想が聞かれました。発表内容もグレードアップしており次回の開催も楽しみです。



<テーマ>

- 外来：筋肉の走行を意識したテープの貼り方について
- 3階手術室：手術前手洗いにおける従来法とウォータレス法の比較
- 一般病棟：服薬管理方法決定に関する判断基準の統一化にむけて～服薬アセスメントシート使用の検討～
- 緩和ケア病棟：患者の思いに寄り添った看護とは何か～本音がわかりづらい患者の看護を通して学んだこと～
- 第37回 福岡救急医学会 発表事例：二次救急病院としての取り組み～災害訓練に参加した職員の意見から考える～

千一夜医話



秋本病院 理事長・院長
あきもと りょういち
秋本 亮一



2度目の「青島」

2度目の新婚旅行ではありません。「青島」は「チンタオ(Qingdao)」と呼んでください。チンタオ(青島)は中国の山東半島にある人口約900万人の港湾都市です。1898年にドイツの租借地となった時に設立された病院が、現在「青島大学医学部付属病院」として発展して続いています。私は11月16日に開かれた、病院の「建院120周年記念式典」に招待されて訪問することになりました。

秋本病院と青島大学付属病院との関係は前理事長の頃から続いています。そのころから交流がある病院長の Dong Qian(董倩) 教授は今回の記念行事の委員長で、我々が長く青島の病院を応援してきたことを評価して、「国際友好賞 International Friendship Award」を私に授与してくれました。120周年の記念式典は市内の八千人収容の巨大な会場で開かれ、満員の参加者の前で名誉ある賞をいただくことができました。また、同時に開催された「第3回青島国際先端医学フォーラム」で、私は日本の消化器内視鏡の現状を講演して



「国際友好賞 International Friendship Award」の賞状

来ました。一度目の訪問は20年前の100周年の記念式典の時で、そのころの青島はまだ発展途上で混然とした街でした。中国には珍しい植民地時代のドイツ風の街並みが残っており、近代的な高層ビルはわずかでした。その時と比べると、スケジュールの合間をぬって案内していただいた懐かしい旧市街は、かつてのたたずまいを残していましたが、その東側にはかつての荒れ地に高層ビルが立ち並ぶ近代的な大きな街が出来ていました。

街の急速な発展ぶりに驚くとともに、病院も新設され更に大きく近代化になり、そして医学フォーラムでの青島大学の学生やスタッフの熱心な態度に、発展する中国の凄まじいパワーを感じた旅でした。



多くの皆さんの前で名誉ある賞をいただきました



現在の青島の街並み



青島大学医学部付属病院「建院120周年の記念式典」会場の様子

11月 大相撲九州場所

銀杏並木も黄色に色づく11月はお相撲さんの福岡入りです。福博の街に鬢付油の香りと雪駄の音が響き初冬の訪れと共に大相撲九州場所が開催されます。



▲場所開始前日に、今年も当院に「触れ太鼓」がやってきました。

当院は、故・秋本徹理事長の代より長きに渡り医療面で九州場所に携わってまいりました。力士の皆さんは厳しい勝負の世界に身を置き礼節を重んじる国技に向き合っている為でしょうか、若くして落ち着いた方が多いと感じます。

そんな力士の方々の笑顔が見て取れるのは初日の前に行われる前夜祭でしょう。有名な「初っ切り」はユーモアたっぷりにお相撲の禁じ手・反則技を土俵の上で実際に披露され大いに会場が沸きます。

12月になると九州各地を回る冬巡業があります。是非、生のお相撲を観戦しその迫力を体験してみたいかがですか。おすすめです。

10/26(金) ハロウィン

毎年恒例、緩和ケアセンターでのハロウィン！仮装スタッフがお菓子を片手に「Happy Halloween！お菓子をどうぞ！」とお部屋を訪問。ノリノリで写真撮影に協力して下さる家族の方々が笑顔いっぱい。突然の出来事に目をキョロキョロさせる方、「何？カボチャ祭り」と言う患者さまも…。



世間を騒がした若者達のハロウィンとは全く別物の笑顔いっぱいの和やかなひと時でした。写真は後日プレゼント。思い出の1枚になりました。

11/29(木) 消防訓練

当院では毎年5月と11月の末に消防訓練を実施しており、とりわけ5月の前期訓練では職員にそれぞれ医師役・看護師役・患者役を演じてもらい、火元発見から初期消火、消防署への通報、駐車場への避難までを行う模擬訓練を実施しております。



実際に担架や車椅子を使用しつつ、火元と非常口や防火扉の位置関係を考慮した上で状況に応じた避難ルートを選択するなど、本番さながらの訓練により万が一の災害時にも的確に対応できるよう備えています。



当院では福岡市消防局の方を講師にお迎えして六年ぶりに救急救命講習会を開催しました。AED（自動体外除細動器）の普及と共に消防局では定期的に講習会が行われ、受講できる機会も増えてきました。今回は当院が産業医としている企業の方を中心に29名の参加があり90分（救命入門コース）と短い時間でしたが、実際に胸骨圧迫の方法及びAEDの操作を体験して頂きました。いざという緊急事態に対応する為には、このような応急処置の手順を理解し習得することはとても大事です。

第24回 秋本メディカルセミナー
救急救命講習会を開催して

福岡市の救急車の台数をご存じでしょうか？福岡市の一日あたりの救急出動が約2000件あるにも関わらず、救急車の台数はたったの29台であり、いかに救急車がフル稼働しているかに驚かされます。



救急出動件数は年々増加傾向を示し、現場到着時間も遅延しています。福岡市では救急要請をするかどうか迷ったときの相談窓口として救急医療電話相談（#7119）が導入されています。私達が急な病気やけがをした時に、救急車を呼んだ方が良いのか、今すぐ病院に行った方が良いのかなど判断に迷った際に、24時間体制で看護師から電話でアドバイスを受けることができるようになっていきます。地域の限られた救急車を有効活用し、緊急性の高い症状の傷病者にできるだけ早く救急車が到着できるように、救急車の適正利用が必要だと実感しました。

●年末年始の診療について
年末年始の診療は12月29日(土)午後～1月3日(木)まで休日体制にいたします。1月4日(金)より通常通り診療を開始いたします。※急患は24時間受け付けています。

給食室
給食より

栄養満点な旬の食材を取り入れ、生活習慣病の予防に！
ブロッコリーのペペロンソテー



管理栄養士 境 英里子

【栄養価(1人分)】
エネルギー：152kcal
たんぱく質：7.0g
脂質：10.9g
炭水化物：10.0g
食物繊維：3.9g
食塩：0.8g



緑黄色野菜の代表ともいえるブロッコリーを使ったレシピです。最近では1年中出回っているブロッコリーですが、11月～3月が一番美味しい時期だそうです。ブロッコリーにはカロテンやビタミンCが豊富に含まれており、さらに生活習慣病の予防効果のあるクロム、カリウムなどの栄養素が豊富に含まれています。

一般的には蕾の部分が食べられますが、茎や葉にも同様にたっぷりの栄養素が含まれています。茎の部分は硬く食感が悪いこともあるので皮をむいてから調理すると美味しく食べられます。

ゆでるだけでも美味しいブロッコリー。日々の食事に積極的に取り入れて、生活習慣病の予防に役立てましょう。

- 材料(1皿分)
- ブロッコリー……………1/2株(150g)
 - オリーブ油……………大さじ1
 - ニンニク……………1/2～1片(すりおろしは6g)
 - ★鷹の爪(輪切り)……………適量
 - ☆コンソメ……………少々
 - ★塩・ブラックペッパー……………適量

- 作り方
- ブロッコリーは小房に分け、茎の部分は皮をむき食べやすい大きさに切る。ニンニクはみじん切りまたは輪切りにする(今回はおろしニンニクを使用)。
 - 沸騰した湯に塩を入れ、茎からゆでる。少し経ったら蕾の部分を入れさっと2分程ゆで、しっかりと水気を切る。
 - フライパンにオリーブ油とニンニクを入れ弱火にかける。
 - ニンニクの香りがしてきたら②と★を加え、味をととのえる。

昭和生まれの語り
7

混血児ユリちゃんのこと

松尾 鞠

私が少女だったころ、野口雨情作詞の「青い目の人形」という、ちょっともの哀しい童謡をよく唄った。

青い目をしたお人形は
アメリカ生まれのセルロイド
日本の港に着いたとき
いっぱい涙を浮かべてた

昭和20年の終戦後のある日、私が通っていた小学校の私のクラスに青い目をした栗色の髪の混血児ユリちゃんが登場して来た。私は一目でユリちゃんが大好きになり、すぐに仲良しになった。しかしあのころの日本は、まだ戦争の記憶の中の鬼畜米英思想から抜け出していないかった。そんな時代の物珍しい混血児は、子供たちにとって格好な苛めの対象だったのだ。

しかもユリちゃんには、脳の病気の後遺症からてんかん(癲癇)持ちのゲンちゃんという兄がいた。私たちが近くの運動場などで遊んでいると、子供の誰かが「ゲンちゃんが癲癇ばり起こして、ぶっ倒れとるバイ」と知らせしてくる。こんな時は決まって苛

められているのだ。ユリちゃんは阿修羅のようになってその現場に駆け付けるのが常だった。少女の正義感はずぐに私にも伝染して、二人は棒切れや小石を掴んで駆け出すのだった。彼女には、ゲンちゃんの他に妹と弟もいて、アメリカ人の牧師だった父親が早世して以来、自分がお父さん役と信じているところがあった。

そして小学校を卒業した後、私は女子校に進学し、ユリちゃんは男女共学の新制中学へと進んだ。そのころの時代の流れは、急速な西洋化で「合いの子、合いの子」と苛められていた混血の美少女は、子供からも大人からも憧憬の的となっていた。私たちが少しづつ疎遠になった。環境の違いなのか、それとも心の中は別の何かなのか、判らなかつた。高校生になったころ、突然ユリちゃんが死んだと知った。家族の住む故郷長崎ではなくて遠く見知らない町で、孤独に死んだと。影と光のようなあの時代に翻弄されて、16歳で死んでしまったユリちゃん。私の小さな思い出。